



国際関係学部三島駅北口校舎夜景

# 日本大学 国際関係学部 校友会報

第43号

静岡県三島市文教町 2-31-145  
日本大学国際関係学部  
校友会

## 平成二十四年度 常任幹事会・幹事会開催

◎常任幹事会  
平成二十四年六月九日(土)十六時から、国際関係学部三島駅北口校舎七階学生食堂において開催された。相田信次会長挨拶の後、会長進行により議事に移り、幹事会提案事項について田中由雄幹事長から各項目ごと詳細にわたり説明があり審議された。

就職合同面接会実行委員に関する件については田中由雄幹事長から国際関係学部四年生及び短期大学部二年生の卒業予定者対象とした合同面接会を昨年度から開催した。平成二十四年一月十八日に第一回合同面接会を開催し十二社の参加企業で三名の決定者が決まり報告書が作成され、本年度も引き続き開催する計画であり、面接会実行委員会を設置したい。委員メンバーとして会長・副会長・幹事長並びに常任幹事から若干名とし委員長に柴田顧問とした旨の提案がなされ、審議の結果承認された。

◎幹事会  
平成二十四年六月九日(土)十七時から、常任幹事会に引き続いて幹事会が開催された。関野幹雄常任幹事の司会で進行され、相田信次会長挨拶の後、議長団・書記が選出された。議長には高野誠常任幹事、副議長には多田清吾幹事、書記には勝又義博常任幹事がそれぞれ選出され、次の議事が審議された。

平成二十三年度事業報告  
平成二十三年度決算報告

新幹事に関する件  
平成二十四年度事業計画(案)

平成二十四年度予算(案)  
会長賞等表彰基準改正に関する件

就職合同面接会実行委員に関する件  
懇親会会費に関する件

校友会会員名簿進捗状況に関する件  
懇親会会費に関する件

校友会会員名簿進捗状況について  
その他の

田中由雄幹事長から、平成二十三年度事業報告引き続き平成二十三年度決算報告の一件が報告され、藤井幹事長は新幹事として事務局から推薦があり承認された。本文彦会計監査から監査報告があり、それぞれ承認された。校友会会員名簿完成までの校友への通知等を密にするため、平成二十四年度は国際関係学部五名・食物栄養学科九名が新幹事として事務局から提案説明がなされ、審議の結果承認がなされた。

続いて平成二十四年度事業計画(案)について及び平成二十四年度収支予算(案)については田中由雄幹事長から提案説明がなされ、審議の結果承認がなされた。

その他としては田中由雄幹事長から、会報(第四十三号)発行について毎年のとおり校友会優秀賞授与者個人三名及び二団体と各学生団体の委員長に原稿依頼をした旨の報告がなされた。

# 「時代を勝ち抜くために」



国際関係学部学部長

佐藤 三武朗

国際関係学部校友会の皆様に  
おかげましては、ますますご清  
栄のことと推察します。

日本大学国際関係学部は、法人  
本部が掲げる「思いは一つ」の  
合い言葉の下に、学生の教育と  
指導に一丸となつて取り組んで  
います。校友会の皆様のご理解  
とご協力があるからこそ、次世  
代に活躍する人材の育成が可能  
と信じます。

さて、昨年は東日本を襲つた  
未曾有の大震災により、様々な  
試練を迎えた。法人本部を  
中心とした果敢な働きかけ、後  
援会のご寄付、学部ごとの努力  
によって、支援活動を行うこと  
ができました。とりわけ、福島  
原子力発電所の放射能被害に遭  
遇した工学部は、試練の克服に  
向けて、教職員が一丸となつて  
います。全国の校友の精神的・  
物質的な支援が大きな励みにな  
っています。これからもさらな

るご支援を御願いしたいと考え  
ます。

さて、本学部の現状ですが、  
三月に三島駅北口校舎が完成し  
ました。三月八日に竣工式を行  
い、四月から実質的な使用を開  
始しています。三島駅北口を降  
りて、一分とかからない距離で  
す。日本全国を見渡しても、新  
幹線駅の間近に立地するのは、  
本学部の北口校舎だけです。一、  
五〇〇坪の三共製薬跡地を購入  
する際に、三共製薬株式会社の  
会長である高藤様から地域発展  
に資するように活用して欲しい  
旨、お話をありました。従つ  
て、新幹線、JR在来線、伊豆  
箱根鉄道沿線の市民の利用を念  
頭に入れて、校友会の皆様、教  
職員、地域社会、学生などから  
作る組織によって、北口校舎の  
活用を考えたいと思います。

少子化に歯止めがかかりませ  
ん。高齢化はますます進みま

す。私学として、国際関係学部  
は斬新な発想の下に、地域社会  
と連携を図り、校友の皆様のお  
知恵をお借りして、来たる時代  
を勝ち残る方策を立てる必要が  
あります。

グローバル化時代を念頭にお  
いて、小さく纏まることはせ  
ず、短・中・長期の発想が欠か  
せません。学生の就職において  
も、海外の日系企業などへの就  
職を支援することが大事です。

円高、高齢化、少子化などの諸  
条件を克服して、世界を相手に  
競争することを忘れてはならな  
いからです。日本人としての誇  
り、作法などをしっかりと身に  
つけ、語学力を武器に世界で戦  
える人材の育成を急ぎたいと考  
えます。新しい学科を創設する  
ことも念頭に置いています。

人材が宝です。時代を担う骨  
太の人材の育成が望れます。  
私たち教職員は、一丸となつ  
て、学生のために頑張ります。  
校友の皆様のご支援とご理解を  
頂きながら、歴史と伝統のある  
日本大学を、さらに高めたいと  
祈念しています。

校友の皆様、どうぞよろしく  
お願い申し上げます。

# 「校友は大学のために、 大学は校友のために」



国際関係学部事務局長

関 秀三

私は、四月二十七日付で大学  
の人事異動により若松事務局長  
の後任として前任地、船橋市に  
あります薬学部から赴任してま  
いました。日本大学に奉職し  
て30数余年、文系の学部に着任  
したのは初めてであり、今まで  
歴任した医歯薬系、自然科学系  
と比較して大分勝手が違ひ当初  
は戸惑うことも多々ありました  
が、佐藤学部長をはじめ教職員  
の皆様に支えられながら少しず  
つ国際関係学部に慣れてきたと  
ころです。微力ではありますが  
国際関係学部の更なる発展のた  
めに努力いたす所存でございま  
す。ぜひ校友の皆様方におかれ  
ましてもご支援ご協力のほどよ  
ろしくお願い申し上げます。

私は国際関係学部に来てます  
と思出したことは、昭和50年代  
に管財部用度課に勤務していた  
時、国際関係学部で語学教育の  
ためのL.L教室にビデオ装置を  
設置することになり、機器備品  
の設置、検収のために数度三島  
にお邪魔したことでした。当時  
ソニー・グループのベータ方式  
と松下グループのVHS方式が  
お互いの覇を競つておりま  
した。私の記憶によれば国際関係  
学部では両方式の機器を導入し  
たかと思います。

また、校友会事務局に在職し  
ていた二〇〇〇年に全国校友大  
会が当時の赤坂プリンスホテル  
で開催されました。司会は芸術  
学部校友の毒蝮三太夫と日本放  
送アナウサーの小口恵理子さん  
で、全国から校友一、〇〇〇余  
名参加。芸術学部放送学科の協  
力のもと、映像と音を駆使し日  
本大学の歴史を遡る「各学部校

長）、佐藤学部長（現職）そして現在日本大学校友会顧問の西村美枝子さんなど三島予科時代の校友、短期大学部の面々、そして全国から集まつた三島教養部の校友が旧交を温めていたことが昨日のように懐かしく思い出されました。

さて、国際関係学部校友会からは学生のために幾多の奨学金制度を設置していただき、誠にありがとうございます。誌面を借りて厚く御礼申しあげます。現下日本の経済状況は相変わらず好転せず、在学生のご父兄中でも大変にご苦労されている方も多く見受けられます。その中で、奨学金制度は、砂漠の中のオアシス。奨学生は、卒業後必ず各界各層でご活躍し、国際関係学部を誇りに思い、校友会に感謝していくものと信じています。決して忘れないでしょ

う。

本年度の入試状況ですが、受験志願者の数は、一般入試では一、〇〇九名と昨年より一三六名減、大学センター入試では六八二名と昨年より一四五名減。一方、短期大学部の新年度入学手続者は、食物栄養学科は一九名、商経学科では九十五名と厳しい入試戦線を余儀なくされております。

このように本学部をとりまく環境は年々厳しさを増しておりますが本学部では、教職員が一丸となって入口（学生募集）から出口（就職）まで、入学した学生が二年後、四年後に満足してこの三島の学び舎から巣立つていくべく方策を練つております。これらのことについても、特に学生の就職は年々厳しさを増している中、会社を經營している校友や会社の採用担当者には一人でも多くの本学部の卒業生を採用していただきたくお願ひ申し上げます。

最後に、本学は教育環境の整備が急務であり、今年三月に竣工し、新年度から利用される北口校舎をうけて、校友の皆様方が長年慣れ親しんだ一号館（昭和三十二年竣工）、四号館（昭和三十九年竣工）、女子俊英学寮（昭和三十七年、四十二年、四十三年竣工）の解体工事が進められています。経年劣化による建物の耐用性、将来予測されている東海地震への対応でもあります。このほかに体育馆、図書館、高校の付属建物など旧建築基準法の建物も多数あります。これらも、順次解体して新しい体育館などを建築していく必要があります。学生諸君が安全な教育環境の下に安心して学園生活を過ごせるようにキャンパス整備を行つてまいります。

## 「会員の皆様へ」



国際関係学部校友会会長  
相田 信次

す。校友会員の皆様にはこれからも国際関係学部、短期大学部（三島校舎）の教育活動に対してもご理解いただきご支援を賜りてご理解いただきご支援を賜り

ます。校友会員の皆様にはこれか

らも国際関係学部、短期大学部（三島校舎）の教育活動に対してもご理解いただきご支援を賜り

ます。校友各位のますますのご活躍を祈念申し上げます。

一人でも内定が取れるよう企画しました。又本年も三島駅北口校舎において十二月開催を予定しています、一人でも多くの学生の決定が取れますように校友会として就職合同面接会を行います。

新たに国際関係学部事務局長に就任しました、関秀三事務局長と校友会との意見交換会を六月二十九日に行い、関秀三事務局長には校友会の現状と事業内容を報告し学部と校友会の信頼関係の構築と発展の為に相方が協力し合つて行く事で一致しました。

七月二十日に学校法人日本大学評議委員会が開催され寄付行為第二十四条第一項第八号による評議員が国際関係学部校友会会長が評議員として選出されました。任期は平成二十六年九月九日まで、私は学校法人日本大学と国際関係学部校友会の発展に寄与する所存です。

私たち執行部は残りの任期中には定年期の団塊の世代に成りつつ有ります。

校友会員の協力をお願いし、若手へ校友会がスムーズに移行出来ますように構築します。

結びに校友会会員の皆様から変わらぬご助言と校友会会員の増強をお願い申し上げますと共にご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

# 「コミュニケーション力を

## 身に着けよう



国際関係学部校友会副会長  
国際関係学部同窓会会长

宮下 公雄

校友の皆さまにおかれましては

す。

多方面でご活躍のほどお喜び申し上げます。国際関係学部国際関係学科1期卒業の宮下公雄と申します。国際関係学部校友会も、相田信次校友会会长 他諸先輩のご尽力により活躍の場を他学部校友会との交流へと大きく移しております。歴史と伝統を築き大きく発展させて下さる三島同窓会から諸先輩方には心より感謝申し上げます。

昨年、東日本大震災に見舞われ被災された校友の皆様やご家族様には深く御見舞い申し上げます。さて、私も大学を卒業後三十年の歳月が過ぎました。現在では私の同期の皆様も、会社で言えば支店長クラス、大学教職員では教授、准教授、事務方では課長クラスで活躍するメンバーも多く見受けられます。私自身も大学卒業後酒販店を経営し現在も時代は変化しましたが、ワインの輸入販売に特化した酒販店、インターネット販売、ソムリエとして現場に出ておりま

だ失敗を起こしてしまいました。私たちは一瞬顔がこわばり凍り付きましたが、何事も無いように静かに食事を済ませホテルに戻りました。日本人のモラルの低さを、世界の人々に見せてしまった瞬間でもありました。この日の苦い経験はそれからの人生でも私にとって、大きな戒めになっております。私たちは普段何不自由ない生活をしておりましたが、その陰には大勢の人の支えがあります。普段から見えない部分に気配り、目配りを持ち見えます。国交を開いて十年、八十年代前半の中国への語学研修は、今でも衝撃的であり、雄大でどこまでも続く大地中国は、すべてが新鮮で多くの事を学ばせて頂きました。北京語言学院留学中にはアメリカ人の留学グループとも交流を深め、宿泊先の寮から天安門広場に訳も分からず乗つたタクシーでは、中国の国会議事堂にあたる人民大会堂に間違つて乗り付けて憲兵さんにひどく叱られた事などが思い出されます。何より今鮮明に覚えているのは上海のレストランでの最後の食事会のひと時です。その当時の中国のエリートサラリーマンが、月に一度やつと通えるレストランに、滞在二週間の間、我々留学生メンバーが代わる我が物語に豪遊を繰り返し、モラルの悪さからレストランタツブがテーブルの真中に、ホークとナイフをまとめて投げ込むと言う

大津の中学校の様に、すべてが体裁を優先し生徒を犠牲にする不幸な事件もありました。閉塞感が漂つた時代、偏った人間形成が不幸を招いておりますが時代が必要とする強い日本人、強い日大人の育成こそ急務です。

国際関係学部の在学生、卒業生の皆さん、日大人として誇りを持ちあらゆるジャンルでチャレンジしてください。一番大切なのはコミュニケーション力、なんといっても人間力

だと思います。

どうか学生の皆さんも、卒業して十年、二十年たつて企業の最先端で働いている皆様も学生時代に培ったスキルを整理する上でも校友会を、自分磨きの場として大いに活用して頂きたいと思います。これからも国際関係学部校友会に皆様のご支援をお願いいたします。

## 「桜栄会会報への思い」



国際関係学部校友会副会長  
桜栄会会长

伊達 伸子

校友会のみな様、こんにちは

私は家政科七期卒の伊達伸子です。

桜栄会は五十余年に亘り桜栄

会の総会と会報の発行を続けてまいりました。が桜栄会単独で

の会報の発行は今年の第四十七号を以ちまして最終となりました。

来年からは校友会会報の紙

面に桜栄会の紙面を割いていた

だき、数ページに掲載することになりました。

現代社会では社会常識を疑うような事件も続発しております。

ケーション力、なんといっても人間力

だと思います。

どうか学生の皆さんも、卒業して

十年、二十年たつて企業の最先端で

働いている皆様も学生時代に培つたスキルを整理する上でも校友会

を、自分磨きの場として大いに活用して頂きたいと思います。これか

らも国際関係学部校友会に皆様のご支援をお願いいたします。

歴代会長、卒業生の声を数多く載せていただきました。

桜栄会は会員一万余名の仲間を輩出してきています。年令差も大変なもので、まして考え方もさまざまです。しかし、桜栄会への熱い想いは会員全員が抱いているものと私は信じています。

# 「忘れな草」校友会絆緯



國際關係學部校友會顧問

校友の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申しあげます。

今年は、国際関係学部の第一期生が昭和五十八年に卒業してから三十年目の年にあたります。その年、ともに卒業した短期大學生は商経科（一部・二部）、家政科（食物栄養専攻）、文科（国文専攻・英文専攻）の各科でした。それから三十年、当時の皆様は五〇歳をクリアし熟年期に入られました。人生最高の活躍をされる円熟の時期です。そして、

国際関係学部（以下学部という）校友会に歴史が積み重ねられてきています。この機会に、今日に繋がる三島学園の歴史のいくつかについて、かいづまんでも記してみたいと思います。

昭和二十一年（一九四六年）四月、旧陸軍野戦重砲第二・第三連隊跡地（翌年三月現在の東海第九部隊跡地に移転）に三島予科設置が理事会決定し、六月十五日に新入生と世田谷予科からの転入生で構成された三島予科が開講となりました。学生の

生達は三島を懐かしみ、三島に学んだ者達の同窓会をと願い昭和二十六年十一月三日の大学終の先輩招待会において、改めて制度を整え、予科生・教養課程修了生・短期大学卒業生を併せた三島同窓会が発足します。新役員には前出の種房繫氏が会長・長田涉氏が常任幹事になり、それに瀬川一男事務局長も加わります。

さらに新学制に基づき、昭和二十五年、短期大学経済科（のち短期大学部商経科）（第一部・第二部）が設置されますが、昭

としての立場を明確にして再出発しました。この同窓会活動による商経科の存続は、のちに田わぬプラス効果をもたらします。それは短期大学部において、昭和三十四年四月の栄養科（のと家政科）を始めとする文科（国文専攻・英文専攻）、工科（建築科・機械科）の増設と、商経科（部）の再開です。短期大学部が充実し基盤が固まり、それは二島学園宿願の新学部設置へも繋がります。

これからも伝統の第一として、後を担う皆様や後輩に引き継がれていくことを願っております。私が学んだのは旧兵舎で、所（廁）は学舎側のグラウンド。教職員住居はグラウンド周辺馬小屋改造成家屋でした。校舎増えるたびに桜は減ってきましたが、富士山は見えます。今大学祭の名は富桜祭です。学と皆様が、単なる感傷ではなく三島の「こころ」を大切に忘られることなく、楽しく発展していくことをお祈り致します。

中には復員学徒や年長者も多く社会的・経済的にも極めて厳しい世相でした。昭和二十二年十一月九日、三島予科出身者が修善寺中田屋で同窓会発会式を行いました。

昭和二十三年にはいると世相の反映もあり青年共産同盟などに所属する一部の学生によつて学園民主化の学生運動が始まります。これに対して、予科文科二年長田涉・種房繫の両氏らが中心となつて学園自治擁護連盟を結成し、紛争は昭和二十四年三月に解決します。

予科は戦後の学制改革（六・三・三・四）により昭和二十四年四月新制大学の教養課程を担当する三島教養部（のち文理学部（三島））に変わり、課程修了者は東京の各学部専門課程に移行することになりました。移行

和二十九年に第一部の新入生は僅か十三名となり、昭和三十年四月から一時募集停止になります。第二部も、昭和三十一年には二九名と漸減し、商経科をすべて廃止する話が出てきました。原因には、戦争による不足学籍等の補充、教員免許取得需要の減少などの時代背景もあります。この危機を耳にした二部同窓生達は昭和三十一年一月に乍まり、せつかく開講された二部を廃止されてなるものかと後輩誘致運動を決定、出身校や職場も対象に活動を開始しました。以後漸増し昭和三十七・三十八年頃には社会構造の変化も加わり順調に回復しました。

足時から、学部卒業生を含め  
体となつた国際関係学部校友  
にしたいと本部校友会に相談  
しておりましたが、教養部と各  
部との重複問題が隘路になり  
論が得られず推移してきました  
学部卒業生数が増加し、さら  
話し合いの中、西村美枝子顧  
(当時)の熱意によつて端緒  
得ることができ、平成十三年  
月規程を整備のうえ三島同窓  
の名称のまま正式加入が承認  
れ、翌平成十四年四月に国際  
係学部校友会の名称になりました。

中には復員学徒や年長者も多く、社会的・経済的にも極めて厳しい世相でした。昭和二十二年十一月九日、三島予科出身者が修善寺中田屋で同窓会発会式を行いました。

昭和二十三年にはいると世相の反映もあり青年共産同盟などに所属する一部の学生によつて学園民主化の学生運動が始まります。これに対し、予科文科二年長田涉・種房繫の両氏らが中心となって学園自治擁護連盟を結成し、紛争は昭和二十四年三月に解決します。

予科は戦後の学制改革（六・三・三・四）により昭和二十四年四月新制大学の教養課程を担当する三島教養部（のち文理学部（三島））に変わり、課程修了者は東京の各学部専門課程に行することになりました。移行生達は三島を懷かしみ、三島に学んだ者達の同窓会をと願い昭和二十六年十一月三日の大学祭の先輩招待会において、改めて制度を整え、予科生・教養課程修了生・短期大学卒業生を併せた三島同窓会が発足します。新役員には前出の種房繫氏が会長・長田涉氏が常任幹事になり、それに瀬川一男事務局長も加わります。

さらに新学制に基づき、昭和二十五年、短期大学経済科（のち短期大学部商経科）（第一部・第二部）が設置されますが、昭

和二十九年に第一部の新入生は僅か十三名となり、昭和三十年四月から一時募集停止になります。第二部も、昭和三十一年には二九名と漸減し、商経科をすべて廃止する話が出てきました。原因には、戦争による不足学等の補充、教員免許取得需要の減少などの時代背景もあります。この危機を耳にした二部同窓生達は昭和三十一年一月に告まり、せっかく開講された二部を廃止されてなるものかと後輩誘致運動を決定、出身校や職場も対象に活動を開始しました。以後漸増し昭和三十七・三十八年頃には社会構造の変化も加わり順調に回復しました。

これを契機に昭和三十二年月二十日、商経科（二部）同窓生達は改めて会則を整え新役員を選出し、三島同窓会の一部としての立場を明確にして再発しました。この同窓会活動による商経科の存続は、のちにわぬプラス効果をもたらします。それは短期大学部において、昭和三十四年四月の栄養科（のち家政科）を始めとする文科（国文専攻・英文専攻）、工科（建築科・機械科）の増設と、商経科（部）の再開です。短期大学部が充実し基盤が固まり、それは三島学園宿願の新学部設置へも繋がります。

足時から、学部卒業生を含め  
体となつた国際関係学部校友  
にしたいと本部校友会に相談  
しておりましたが、教養部と各  
部との重複問題が隘路になり  
論が得られず推移してきました  
学部卒業生数が増加し、さら  
話し合いの中、西村美枝子顧  
(当時)の熱意によつて端緒  
得ることができ、平成十三年  
月規程を整備のうえ三島同窓  
の名称のまま正式加入が承認  
され、翌平成十四年四月に国際  
係学部校友会の名称になりました。

三島学園で教育を受けられ  
方には工学部や医学部などに  
まれた方もあり多様性に富ん  
教育組織でありましたが、そ  
出身の如何を問わず、幸いに  
て今日まで皆こだわりなく陸  
あつてきました。この風土は  
これからも伝統の第一として、  
後を担う皆様や後輩に引き継  
れていくことを願つております

私が学んだのは旧兵舎で、一  
所(廁)は学舎側のグラウンド周辺  
馬小屋改造家屋でした。校舎  
増えるたびに桜は減つてきま  
たが、富士山は見えます。今  
大学祭の名は富桜祭です。学  
と皆様が、単なる感傷ではなく  
三島の「こころ」を大切に忘  
られることなく、楽しく発展、  
していくことをお祈り致します。

## 校友会優秀賞受賞者



国際文化学科四年

### ガンドウ・ベンジヤミン

大学生生活も大詰めとなり、鍛錬の夏を越え、いよいよ東京箱根間往復駅伝予選会、全日本大学駅伝を迎えることになります。大学での陸上競技生活を通して、いろいろな経験を出来たことに心から感謝しています。

入学し、初めてである日本での生活は戸惑うことばかりでしたが、私を取り巻く方々の手助けで乗り越えることが出来ました。また、入学して一年間は本学の卒業生であるギタウ・ダニエルさんという大きな目標がいて、その姿を追つただひたすらがむしゃらに、毎日の練習をこなしていました。一年生になつて頼れる先輩が卒業してしまい、自分自身で考え行動しなければならない場面が増え、悩ましい時期もありましたが、関東インカレで優勝、そして全日本大学駅伝では七人抜きでの区間賞を獲得することが出来、大きく成長することが出

きました。

三年生となつた昨年度は、全日本インカレの一ヶ月で優勝を果たすことが出来ましたが、箱根駅伝予選会では思うような走りが出来ず、チームは本選出場を逃すというとても悔しい結果になつてしましました。その悔しさをぶつけた全日本大学駅伝では、二年次と同じ四位でファイニッショード権を獲得することが出来ました。また、前年と違つてアンカーの私に権が渡った時点でシード圏内の六位と、チームの地力には手ごたえを感じました。今回の箱根駅伝をテレビで観戦して、より一層、箱根予選会を通過し、来年の箱根駅伝では快走してチームに貢献し、昨年味わった悔しさを晴らしたいと思いました。

そして、今年二月の丸亀ハーフマラソンでは一時間一分六秒と大幅に自己記録を更新しました。また、最終学年として臨んだ関東インカレのハーフマラソンでは優勝することが出来ました。現在、一年生に新留学生のダニエル・ムイバも加わりました。彼の競技に対する姿勢は見習うべき部分が多く、お互いに競技力を高められるように頑張ります。そして、先輩として、彼が戸惑うことはしっかりとサポートしていくたいです。

日本大学での学生生活も残りわ

ずかです。日本に来て四年間多くの大學生関係者や校友会の方々の支えのおかげで充実した学生生活を過ごすことが出来ています。支え

過來た皆様に感謝の気持ちを持つて、最後となる箱根駅伝でこれまでの練習の成果を存分に發揮して恩返ししたいと思っています。



国際文化学科四年

### 白滝 成美

大学生生活も残り半年になり、入学してからの日本大学で過ごしました日々を思い返しています。今回、校友会会长賞に選考して頂き、身の引き締まる思いです。

私の属する陸上競技を通して人を育てくれる部活です。協同生生活をする中で仲間と関係を持ち、共に笑い、共に悩み共に涙する事で、互いを理解する事を教わりました。多方面から集まり、地方の方言が飛びかう中で、互いを尊重し互いの存在に感謝して生活しています。

私達の大きく目指していくとこ

ろは十月末の全日本大学女子駅伝です。出場する為には強豪校が集う関東大学女子駅伝を勝ち抜かなければなりません。シード校を抜かす上位六校、広くはない道です。私達は二年前全日本大学駅伝に出場しました。結果は最後まで

タスキを繋なぐ事が出来ず、アンカーラインには一人で走らせてしまいました。そして昨年は全日本への切符を手にする事も出来ませんでした。私もチームも二年前に置いてきた忘れものを全日本に取り戻しに行かなればなりません。卒業してしまつた先輩との成せなかつた想いと共に、今のメンバーとタスキを繋ないでいきたいのです。

タスキを繋なぐ事は想いを繋なぐ事です。そしてチームを繋ないでいきます。陸上競技の個人で争う競技において、仲間の存在を感じられる事はとても有り難い事で、苦しい時や諦めそうになつた時、粘りきれる根源になります。一人でない事、監督の指示、仲間の声援、汗の染みたタスキ。今仲間と共に、先輩方が待つてゐる全日本大学女子駅伝の舞台に飛び込み、楽しみたい。沢山の想いを乗せてタスキを繋ないでいきたいです。



国際交流学科三年

### 岡林 将大

大学在学中の部活に所属している学生、特に一、二年生の大多数の生徒は、自分が○○大学出身でせんでした。私もチームも二年前に置いてきた忘れものを全日本に取り戻しに行かなればなりません。卒業してしまつた先輩との成せなかつた想いと共に、今のメンバーとタスキを繋ないでいきたいのです。ただ大学に通い講義を受けているだけの日々では正直自分が『日本大学』に通つてゐるという意識が希薄だった。そんな中通学中に犯人逮捕に貢献するという出来事がありそれまでの意識が少しずつ変わつてついた。最初に新聞に載つた時は逮捕された犯人の事だけしか書かれてゐなかつた。次に載つた時は静岡県内の大学生が取り押さえたという事まで載つていた。この時に大学生、というだけで日大生とかかれ無い事にもやもやした。しばらくして三島警察署から犯人逮捕に貢献の件で表彰したいと連

絡があつた。当日は三島警察署で署長さんから感謝状をいただいき、その後静岡新聞の取材を受けた。逮捕した時に何を思い行動して犯人を取り押さえるかにいたつたか正直な気持ちを話した。その時は前述の通り大学名をあげての報道がなかつた事が残念に思つたという事なども伝えた。そして夏休みになり当時のゼミの担任であつた渡辺先生からメールが届き、静岡新聞に実名と写真付きで記事が載つた事を教えてもらつた。この出来事があつてから自分の中で愛校心というか日本大学に対する帰属意識が今までよりも強くなつたと思う。後に夏休みにボランティアをした際も、学校からの派遣ではなく私的な参加であつても日本大学といふ看板を背負つて参加しているんだという意識を持つて臨んだ。そして後日駅で忘れ物をした際に駅員室に取りにいった際に身分証明証を出したら、対応をしていた駅員が「自分も日大出身なんだよ、通学大変だろうけど頑張つてね」と言つてくれた。嘘のようだけど本当の話だ。他人に無関心と言われている現代社会において同窓生といふだけでも確かなつながりを感じた出来事だつた。大学に入つてからの様々な出来事、出会いを通じて自分の考えがだんだん変化していく

た。大学の代表というのは特別に何かを成し遂げた者だけでなく、大学に通い、卒業した者全員が大学の看板を背負つた代表なのだという事だ。今後自分がこの件のように日本大学の「と触れられる事はないかもしない。しかしそれでも自分は日本大学の代表の一人なのだ。そういう意識を強く持ち、先輩達が作ってくれたつながりに感謝して前に進んでいけたらと思う。

一日三、〇〇〇回のバットティングを目標にしていた松井さん。麻生さんもバッティング、ノック、トレーニングと夜遅くまでグラウンドで汗を流していた。2人の印象は、とにかく練習量が多いというもの。

二人は、後輩たちの大学野球生活に大きな影響を与えてくれた。目標に向かって努力すれば必ず夢は叶う。努力した事は必ず自分に返ってくる。などの教訓も一人が残してくれた。

重慶で京大が全国への切符を手にした。残念ながら、全国への出場の夢は叶わなかつた。

五月三十一日、松井さんが1軍に上がつた。それ以降、好調を維持し、レギュラーに定着した。松井さんが活躍するたびに新聞やテレビで日本大学国際関係学部の名前が紹介された。私はそのたびにとても嬉しく、国際関係学部の野球部であることを誇りに思えた。

栄養士の資格を得て、その知識を生かした商品開発がしたい。そのような想いをもつて食物栄養学科に入学しました。

室伏セミナー代表

鵜澤まゆか



トやパッケージ、さらには原価管理に至るまで全ての工程に関わります。学生のうちに商品開発に携われる、これは将来商品開発がしてみたいと考えていた私にとって、とても恵まれた環境でした。

**硬式野球部代表**  
**国際ビジネス情報学科四年**  
**茂木 宏之**

硬式野球部は創部十三年目。以来指揮を執る和泉貴樹監督のもと、これまで全日本大学野球選手権大会出場三回。三人のプロ野球選手を輩出している。

全国大会で勝てるチームづくりを目指し猛練習を続けた。

があつてから自分で自分の中で愛校心と  
いうか日本大学に対する帰属意識  
が今までよりも強くなつたと思  
う。後に夏休みにボランティアをし  
た際も、学校からの派遣ではなく  
私的な参加であつても日本大学と  
いう看板を背負つて参加しているん

は前述の通り大学名をあげての報道がなかつた事が残念に思つたといふ事なども伝えた。そして夏休みになり当時のゼミの担任であつた渡辺先生からメールが届き、静岡新聞に実名と写真付きで記事が載つた事を教えてもらつた。この出来事

硬式野球部は創部十三年目。以来指揮を執る和泉貴樹監督のもと、これまで全日本大学野球選手権大会出場三回。三人のプロ野球選手を輩出している。

東京ヤクルトスワローズ・背番号五十七松井淳、背番号一二四麻生智史（平成二十一年度卒）、福岡ソフトバンクホークス・背番号三三五清水貴之（平成十八年度卒）。

事が出来た。全国出場をかけた東海大会、静岡・岐阜・三重の優勝校が総当たり戦を行い、一校が全国への切符を手にする。

権大会出場、静岡リーグ春・秋連続優勝と素晴らしい成績を収めた。私たちはその記録を超えるため、全国大会で勝てるチームづくりを目指し猛練習を続けた。

そうして臨んだ春季リーグ戦。静岡では一二勝二敗一分で優勝する

私自身は、4年生でレギュラーを取ることができ、キャプテンという大役も仰せつかつた。

一人は後輩たちの大学野球生活に大きな影響を与えてくれた。目標に向かって努力すれば必ず夢は叶う。努力した事は必ず自分に返ってくる。などの教訓も一人が残してくれた。

全国の舞台で日本大学国際関係学部の名前を全国に轟かせたい。

室伏ゼミでは研究の他に、地

栄養士の資格を得て、その知識を生かした商品開発がしたい。そのような想いをもつて食物栄養学科こ入学しませ。

を出したら、対応をしていた駄員が「自分も日大出身なんだよ、通学大変だろうけど頑張ってね」と言つてくれた。嘘のようだけど本当の話だ。他人に無関心と言われている現代社会において同窓生というだけでも確かにつながりを感じた出来事だった。大学に入つてからの様々な出来事、出会いを通じて自分の考えがだんだん変化していく

五十七松井淳、背番号二四麻生智史（平成二十一年度卒）、福岡ソフトバンクホークス・背番号三五清水貴之（平成十八年度卒）。

静岡代表・日本大学国際関係学部、岐阜県代表・岐阜経済大学、三重県代表・三重中京大学、三チームのレベルは拮抗していた。二日連続で三チームとも1勝1敗。三日目は、両チームに逆転負けを喫し、三

重慶京大学が全国への切符を手にした。残念ながら、全国への出場の夢は叶わなかつた。

管理に至るまで全ての工程に関わります。学生のうちに商品開発に携われる、これは将来商品開発がしてみたいと考えていた私にとって、とても恵まれた環境でした。

この様な社会に一步踏み込んだ活動の中で、私達ゼミ生は、一緒に商品開発をさせていただいた企業の方々と議論したり、その商品を販売するためイベント関係者の方と連絡を取り、さらにイベントに来て下さった地域の方々を接客する等、多くの方々と関わる機会があります。そのことは私達の社会性を高めることに大きく役立っています。



私は室伏ゼミと静岡県「一社一村しづおか運動」で連携している伊豆市月ヶ瀬梅林に興味を持ち、特別研究の課題を「静岡県産梅とその加工品に含まれる有用成分の分析」とし、その活動に積極的に参加してきました。

「一社一村しづおか運動」とは農業者の減少・高齢化・農山村の過疎化などにより、資源の保全が困難になつてきている農山村集落）と、地域社会への貢献に関心の高い組織団体（企業や大学等）の仲立ちし、対等な関係のパートナーシップにより、農山村の活性化を目指す取り組みです。伊豆市月ヶ瀬梅林の活動では私たち学生は梅狩りの手伝いや伊豆市月ヶ瀬梅組合が運営する年2回のイベントに協力し、地域活性化に努めています。一方で組合も興味を持っていただけた伊豆市月ヶ瀬梅林から収穫された試料を用いて特別研究を進めています。

その活動に様々な関わりの中で、気候に恵まれず穫量が減ってしまったたり、台風の影響で大きな打撃を受けるなど多くの苦労があることを目の当たりにしました。このような現状を見て、私たち学生は、さらに地域活性化に協力していくかなければならぬと実感しました。

室伏ゼミでの活動は農作業、商品開発、パンフレット作り、商品ボスター作りなど本当に多忙で、辛く、苦しい時期もありますが仲間と励まし合い協力することで成果を得ることができます。考案した商品が完成した時や、直接販売を行って商品が売り切れた時の達成感はとても大きく、充実した大学生活が送れた、と自信を持って言えます。

これら活動に対して、日本大

学国際関係学部奨励賞をいただけたことは、私たちの活動の意義を認めていただけなものとして感激でいっぱいです。これまでの大学生活を支えてくれた先生方、地域の方々、友人に感謝します。

後者のような方が多かつたです。正直な話、高校までバリバリ体育会系だった私は、今後のCSAについて熱く語れる仲間が少なくて、当時はよく悩んでいました。しかしながら動機はどうあれCSAに入部した仲間達は悪く言えばぶつ飛んでる、でも実はクリエイティブな発想ができる史上最强のクルーでした。そして何よりも仲間達は眞面目で私に優しく接してくれました。入部してすぐはバラバラでしたが、共に悩み、苦しみ、汗を流した分、チームワークが生まれたと思います。私が委員長であるのに道に逸れてしまつた時も、叱咤激励をしてくれたのはCSAの仲間達でした。CSAの皆とは社会人になつても

は私にとつて本当にかけがえのないものでした。

中学・高校時代から、何においても部長やキャプテン・班長などを経験し、文化祭や体育祭が大好きだった私は、それらの経験が生かせそうだったこの学生会CSAに入りました。しかし、大学ではやりたいことがあって集まる人達もいれば、友達を作りたくて集まる人達もいます。CSAはどちらかと言えば後者のような方が多かつたです。正直な話、高校までバリバリCSAについて熱く語れる仲間が少なくて、当時はよく悩んでいました。しかしながら動機はどうあれCSAに入部した仲間達は悪く言えばぶつ飛んでる、でも実はクリエイティブな発想ができる史上最强のクルーでした。そして何よりも仲間達は眞面目で私に優しく接してくれました。入部してすぐはバラバラでしたが、共に悩み、苦しみ、汗を流した分、チームワークが生まれたと思います。私が委員長であるのに道に逸れてしまつた時も、叱咤激励をしてくれたのはCSAの仲間達でした。CSAの皆とは社会人になつても

ど皆との出会いは私にとつて宝物です。

もう一つ、との出会いの他に大切なものがありました。それは今までに味わったことの無いような達成感などの経験です。イベントなどを企画し、公文書を提出して実行する。高校ではできない体験です。小さいものから学園祭や外部の人を巻き込む程の規模のものまで一から全て仲間と共に作り上げました。学園祭の時は、自分のゼミの英語劇の練習とスケジュールが被つてしまい、多くの人に迷惑をかけましたが、ゼミとCSAの皆が理解していただいたので両方ともやり通すことができました。全てが終わった時、涙がポロポロ出てきたのを覚えてます。苦しかった分、相当な達成感を得られました。

最後になりますが、私はこのCSAの経験を将来の夢である教師になるために、そして教師になつてからも生かしていきたく思います。そして私の大学生活を支えてくださった仲間達、教職員、これまでの関わった全ての人々と両親にこの場を借りて心から厚く御礼申し上げます。

## 各学生団体代表者

### 「学生会CSA」



国際交流学科四年  
**小林 訓史**

長い大学生活において、この学生会CSAの活動というものは

付けていきたいと思えるほど皆との出会いは私にとって宝物です。

もう一つ、との出会いの他に大切なものがありました。それは今までに味わったことの無いような達成感などの経験です。イベントなどを企画し、公文書を提出して実行する。高校ではできない体験です。小さいものから学園祭や外部の人を巻き込む程の規模のものまで一から全て仲間と共に作り上げました。学園祭の時は、自分のゼミの英語劇の練習とスケジュールが被つてしまい、多くの人に迷惑をかけましたが、ゼミとCSAの皆が理解していただいたので両方ともやり通すことができました。全てが終わった時、涙がポロポロ出てきたのを覚えてます。苦しかった分、相当な達成感を得られました。

最後になりますが、私はこのCSAの経験を将来の夢である教師になるために、そして教師になつてからも生かしていきたく思います。そして私の大学生活を支えてくださった仲間達、教職員、これまでの関わった全ての人々と両親にこの場を借りて心から厚く御礼申し上げます。

## 「体育会」



国際ビジネス情報学科四年

中林 広希

私が日本大学国際関係学部に入学して気が付くと三年以上の年月が流れていました。数多くの活動をしてきた中で、ここまで成長することが出来ました。こんなに素晴らしい経験をさせて頂けたことに感謝しています。

礼に終わる」競技・人間を形成する競技であると言われています。自分は剣道部での活動を通じて技術的な面と人間的な面を微量であります成長させることが出来たと思います。これも共に剣道部で汗や涙を流し同じ釜の飯を食べた仲間のおかげです。剣道部で活動をしてきて本当に良かったと考えています。

小学生から高校まで剣道を続けて居ました。大学に入学してからも剣道を続けたいと考えたので剣道部に入部しました。入部当初、高校まで所属してきた剣道部との多くの違いに戸惑いがありました。高校までは監督にご指導のもと技術や意識の向上を図つてきましたが大学では自分で考え技術の向上が求められる点が大きな違いです。自分は運動能力と剣道の努力が必要でした。その為、誰よりも多く練習に参加すると共に三島市内の道場へ自主的に出稽古にも行きました。その他にも先輩方もからのご指導を多く頂きました。

この様に練習をして来てオール日大会優勝や自分よりも高段者の相手に勝利を収める事が出来ました。剣道を通じて努力はいつか実を結ぶということを学びました。剣道は「礼に始まり礼に終わる」競技・人間を形成する競技であると言われています。自分が剣道部での活動を通じて技術的な面と人間的な面を微量であります成長させることが出来たと思います。これも共に剣道部で汗や涙を流し同じ釜の飯を食べた仲間のおかげです。剣道部で活動をしてきて本当に良かったと考えています。

四年生となつた現在、就職活動の真っ最中であり周りの友人から内定を頂いたと話を耳にする度に学生生活の終りの近付きと就職活動への焦りを感じていますが、今まで培つたものを作りかして頑張りたいと思います。そして残りわずかの学生生活に悔いのないように過ごしていくたいです。

学生生活では、全国各地から出身の沢山の友人ととの出会いがありました。その中でも二年生からのゼミナール活動での先生、友人の出会いが大きかったです。私の所属しているゼミはみんな仲が良く毎回の授業やゼミの時間に自分にとって刺激的であり多くのことを学ばせて頂きました。特に昨年の夏休み期間の海外研修で異文化に触れてみて多くの刺激を受けました。海外の学生の学習意欲の高さ、海外で働く日本人の方々の仕事に対する姿勢などを目の当たりにして見習う事ばかりでとても良い経験となりました。

ゼミ活動以外でも、体育会執行部として球技大会の開催や各団体の活動のサポートなど数多くの活動をしてきました。この体育会の活動では学校の関係者各位の多くの協力があり活動することが出来ました。本当に感謝しております。今後も体育会執行部は懸命に活動していく所存でございます。

ひとつは富桜祭実行委員会です。入学して一番に目にしたものが富桜祭実行委員会の勧誘ポスターでした。高校まで野球しかやってこなかつた私にとつて文化系の団体や学祭とは無縁でした。そんな私が入部を決意したのは、色々な人が入部を決意しています！の一言でした。部員は100人近く、ゼミやサークル、部活動など多くの学生と関わる機会が多かったです。入部するまで文化系団体のイメージは暗く、活気のないものでした。しかし、そこには、私の大学生活を明るく照らす光しかありませんでした。何か悩みがあれば、みんなで話し合い、暇さえあれば、みんなで旅行に行く。ここでの出会いが一番大きかったような気がします。

もうひとつがゼミです。ゼミでの一番の思い出はシンガポールに行つた海外研修です。今まで海外で働くことなど考えたことはありませんでした、そんな最後に、大学生活で私を支えてくださった教職員の方々、多くの友人に感謝しています。あ

れ、本学部に入学したのは、日本各地の人と出会い、色々な経験をし、自分の新たな可能性を見つけたからです。この大学4年間で色々な出会いがありました。

そして、大学生活一番の転機は東日本大震災でした。私は発災直後、国際関係学部の代表として募金活動を行いました。その時に感じたものは、今まで色々な人と交流を深めていて良かった。この一つに尽きると思います。経験のない私が代表を務められたのも富桜祭を通じて知り合つた友人の助けがあつたからこそです。その年の富桜祭で実行委員長を務め、震災から復興への思いを込め、テーマを「Tomodachi」三島ら笑顔を！」に決めました。毎年学生主体で盛り上がりを見せていた富桜祭が、三島市民や地域企業の方々を巻き込み、今までにない盛り上がりだったようを感じました。

や日本人学校をデザインした建築の方のお話を聞いて、海外で働く魅力、現地の方と関わることに魅力を感じました。将来、海外で仕事をしたいと思つ

日本大学国際関係学部に入学して4年が経とうとしていま

す。私が故郷である福岡県を離

## 「富桜祭実行委員会」



国際ビジネス情報学科四年

野嶋 聰

日本大学国際関係学部に入学して4年が経とうとしていま

す。私が故郷である福岡県を離

# 平成 23 年度 事 業 報 告

- 1 国際関係学部校友会会長賞等授与  
 平成23年度日本大学国際関係学部在学生から、次の者が国際関係学部長から推薦された。  
 ・校友会会长賞（副賞：奨励金）は、国際関係学部4名に贈られ平成24年3月25日の卒業式当日、グランドプリンスホテル新高輪において授与式が行われた。  
 ・校友会優秀賞（副賞：奨励金）は、国際関係学部1名及び短期大学部3名に贈られ平成24年3月25日の卒業式当日、グランドプリンス新高輪において授与式が行われた。  
 ・校友会優秀賞（副賞：奨学金）は、国際関係学部3名及び1団体並びに短期大学部1団体に贈られ平成24年4月3日開講式当日授与式が行われた。  
 ①校友会会长賞（副賞：奨励金）  
     佐久間仁輝（国際交流学科4年）    橋本 康弘（国際ビジネス情報学科4年）  
     張替祐介（国際文化学科4年）    山下 昌志（国際交流学科4年）  
 ②校友会優秀賞（副賞：奨励金）  
     本田 怜央（国際関係学科4年）    塩谷 彰子（専攻科食物栄養専攻2年）  
     桑原 里沙（食物栄養学科2年）    小原美妃子（食物栄養学科2年）  
 ③校友会優秀賞（副賞：奨学金）  
     ガンドウ・ベンジャミン（国際文化学科3年）    白滝 成美（国際文化学科3年）  
     岡林 将大（国際交流学科2年）  
     硬式野球部（団体）    室伏ゼミナール（団体）
- 1 日大スポーツ11  
 1.100部を平成23年4月国際関係学部・短期大学部（三島）各学科の新入生全員に対して入学祝として渡した。
- 1 会報発行  
 会報42号を平成23年9月1日付け18頁 3,000部を発行した。
- 1 各科同窓会等補助  
 ①国際同窓会・桜栄会名簿作成に対する補助  
 ②大学の体育会に対する補助  
 ③箱根駅伝予選会応援に対する補助  
 ④伊豆マラソン大会応援に対する補助
- 1 常任幹事会  
 平成23年6月25日（土）16時から、パステリア地中海3階において開催した。
- 1 幹事会  
 平成23年6月25日（土）17時から、パステリア地中海3階において開催した。
- 1 総会並びに懇親会  
 平成23年7月23日（土）16時30分から、みしまプラザホテルにおいて開催した。
- 1 国際校友会公式WEBサイト開設  
 平成23年4月から公式WEB（ホームページ）に年間5回に渡り校友会行事を写真集として更新しました。
- 1 箱根駅伝予選会応援  
 平成23年10月15日（土）国営昭和記念公園コースのスタート・ゴール地点及び中間地点で応援した。
- 1 就職合同面接会  
 平成24年1月18日（水）13時から17時まで、国際関係学部8号館3階に於いて国際関係学部・短期大学部の卒業予定者に対する就職支援の一環とした合同面接会を開催した。
- 1 伊豆マラソン大会応援  
 平成24年2月19日（日）修善寺駅北口スタート応援地点及び三島市役所別館ゴール応援地点で国際関係学部体育会ダンス部・文化会吹奏楽部と応援した。

## 平成 23 年度 収 支 決 算 書 (平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日) (単位:円)

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	項 目	予 算 額	決 算 額	差 額
獎 学 費	600,000	490,000	110,000	会 費 収 入	14,943,000	12,597,800	2,345,200
日大スポーツ購入費	420,000	330,000	90,000	雜 収 入	540,000	484,126	55,874
校 友 会 報 発 行 費	250,000	228,900	21,100				
各 科 同 窓 会 等 補 助	500,000	580,000	△ 80,000				
学 生 団 体 補 助	1,000,000	690,000	310,000				
総 会 並 び に 懇 親 会 費	1,080,000	961,705	118,295				
箱 根 駅 伝 応 援 補 助	1,000,000	85,240	914,760				
本 部 校 友 会 会 費	470,000	470,000	0				
卒 業 記 念 品 費	2,500,000	2,898,000	△ 398,000				
会 議 会 合 費	400,000	294,762	105,238				
信 通 搬 費	250,000	132,433	117,567				
ホ ー ム ペ ー ジ 運 営 費	300,000	558,600	△ 258,600				
事 務 費	800,000	622,327	177,673				
会 員 名 簿 作 成 費	1,500,000	1,671,317	△ 171,317				
就 職 説 明 会 運 営 費	0	372,110	△ 372,110				
雜 費	800,000	1,210,814	△ 410,814				
国際関係学部校友会奨学金支援基金	500,000	500,000	0				
予 備 費	100,000	0	100,000				
計	12,470,000	12,096,208	373,792	計	15,483,000	13,081,926	2,401,074
基 金 繼 入 額	600,000	600,000	0	基 金 繼 出 額	0	0	0
次 年 度 繰 越 金 (繰越金)	21,866,194	19,838,912	2,027,282	前 年 度 繰 越 金	19,453,194	19,453,194	0
支 出 の 部 合 計	34,936,194	32,535,120	2,401,074	収 入 の 部 合 計	34,936,194	32,535,120	2,401,074

## 貸 借 対 照 表 (平成 23 年 3 月 31 日現在) (単位:円)

借 方		貸 方	
項 目	金 額	項 目	金 額
普 通 預 金	34,838,912	基 金	16,830,000
定 期 預 金	1,830,000	前 年 度 繰 越 金	16,230,000
		本 年 度 繰 入 額	600,000
		本 年 度 繰 出 額	0
		次 年 度 繰 越 金	19,838,912
		前 受 金	0
		繰 越 金	19,838,912
合 計	36,668,912	合 計	36,668,912

## 基 金 の 内 訳 (単位:円)

項 目	前 年 度 繰 越 額	本 年 度 繰 入 額	本 年 度 繰 出 額	合 计
基 金	16,230,000	600,000	0	16,830,000
日本大学創立150周年記念事業基金準備金	5,410,000	200,000		5,610,000
国際関係学部創立50周年記念事業基金準備金	5,410,000	200,000		5,610,000
三島学園開設75周年記念事業基金準備金	5,410,000	200,000		5,610,000
計	16,230,000	600,000	0	16,830,000

平成 23 年度収入について関係帳簿並びに証拠書類を精査いたしましたが、記帳その他正確であることを認めます。

平成 24 年 5 月 17 日

会計監査 宮川守  
藤本彦

## 平成 24 年度 事 業 計 画

- 1 国際関係学部校友会会長賞等授与（副賞：奨励金もしくは奨学金）  
 日本大学国際関係学部及び短期大学部（三島校舎）を平成25年3月卒業・4月進級の予定者を対象とする。  
 ・校友会会长賞並びに奨励金 国際関係学部 4年卒業予定者 3名  
 ・校友会優秀賞並びに奨励金 国際関係学部 4年卒業予定者 3名  
 ・校友会会长賞並びに奨学金 短期大学部（専攻科含む） 2年卒業予定者 3名  
 国際関係学部 2・3年在学生 3名  
 短期大学部（専攻科含む） 1年在学生 3名
- 1 日大スポーツ12  
 1,150部を平成24年4月国際関係学部及び短期大学部（三島校舎）各学科の新入生全員に対して入学祝として渡す。
- 1 会報発行  
 会報43号（平成24年9月1日付）18頁 3,200部。
- 1 各科同窓会等補助  
 ①各科同窓会名簿作成の推進に対する補助。  
 ②大学体育会・文化会に対する補助。  
 ③箱根駅伝応援に対する補助。  
 ④伊豆マラソン大会応援に対する補助  
 ⑤全日本大学女子駅伝対校選手権大会応援に対する補助  
 ⑥全日本大学駅伝対校選手権大会応援に対する補助
- 1 常任幹事会  
 平成24年6月9日（土）16時から、国際関係学部（三島駅北口校舎）において開催する。
- 1 幹事会  
 平成24年6月9日（土）17時から、国際関係学部（三島駅北口校舎）において開催する。
- 1 総会並びに懇親会  
 平成24年7月7日（土）16時から、みしまプラザホテルにおいて開催する。
- 1 國際校友会公式WEBサイト更新
- 1 全日本大学女子駅伝応援  
 平成24年10月21日（日）仙台市陸上競技場スタート応援地点仙台市役所前ゴール応援地点で応援する。
- 1 箱根駅伝応援  
 平成25年1月3日（火）復路スタート応援地点で応援する。また、平成25年1月2日（月）往路ゴール応援地点及び平成25年1月3日（火）復路スタート応援地点で国際関係学部体育会所属ダンス部・文化会所属吹奏楽部の学生が応援に参加する。
- 1 就職合同面接会  
 平成24年12月7日（金）国際関係学部校舎に於いて国際関係学部・短期大学部の平成24年度卒業式予定者等を対象とした県内本学出身代表者企業参加による合同面接会を開催する。
- 1 伊豆マラソン大会応援  
 平成25年2月19日（日）修善寺駅北口スタート応援地点及び三島市役所別館ゴール応援地点で国際関係学部体育会所属ダンス部・文化会所属吹奏楽部の学生が応援に参加する。

## 平成 24 年度 収 支 予 算 書 (平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日) (単位:円)

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	本年度予算額	前年度予算額	差 額	項 目	本年度予算額	前年度予算額	差 額
奨 学 費	450,000	600,000	△ 150,000	会 費 収 入	14,530,000	14,943,000	△ 413,000
日大スポーツ購入費	350,000	420,000	△ 70,000	雜 収 入	480,000	540,000	△ 60,000
校友会報発行費	250,000	250,000	0				
各科同窓会等補助	300,000	500,000	△ 200,000				
学 生 団 体 補 助	800,000	1,000,000	△ 200,000				
総会並びに懇親会費	1,000,000	1,080,000	△ 80,000				
箱根駅伝応援補助	1,000,000	1,000,000	0				
本部校友会会費	470,000	470,000	0				
卒 業 記 念 品 費	2,000,000	2,500,000	△ 500,000				
会 議 会 合 費	300,000	400,000	△ 100,000				
通 信 運 搬 費	200,000	250,000	△ 50,000				
ホ ー ム ペ ー ジ 運 営 費	400,000	300,000	100,000				
事 務 費	700,000	800,000	△ 100,000				
会 員 名 簿 作 成 費	2,500,000	1,500,000	1,000,000				
就職説明会運営費	400,000	0	400,000				
雜 費	800,000	800,000	0				
国際関係学部校友会奨学金支援基金	250,000	500,000	△ 250,000				
予 備 費	100,000	100,000	0				
計	12,270,000	12,470,000	△ 200,000	計	15,010,000	15,483,000	△ 473,000
基 金 繼 入 額	0	600,000	△ 600,000	基 金 繰 出 額	0	0	0
次 年 度 繰 越 金 (繰越金)	22,578,912	21,866,194	712,718	前 年 度 繰 越 金	19,838,912	19,453,194	385,718
支 出 の 部 合 計	34,848,912	34,936,194	△ 87,282	収 入 の 部 合 計	34,848,912	34,936,194	△ 87,282

## 基 金 の 内 訳

(単位:円)

項 目	前 年 度 繰 越 額	本 年 度 繰 入 額	本 年 度 繰 出 額	合 计
基 金	16,830,000	0	0	16,830,000
日本大学創立150周年記念事業基金準備金	5,610,000	0	0	5,610,000
国際関係学部創立50周年記念事業基金準備金	5,610,000	0	0	5,610,000
三島学園開設75周年記念事業基金準備金	5,610,000	0	0	5,610,000
計	16,830,000	0	0	16,830,000

平成 24 年度役員

役	職	氏	名 (在学年度)
教	養		
幹	事	石川	進 (25·26)
幹	事	長倉	祐作 (25·26)
幹	事	宮崎	茂樹 (25·26)
幹	事	光信	儔 (26·27)
幹	事	浅原	好胤 (26·27)
幹	事	高橋	英明 (26·27)
幹	事	荒川	通 (26·27)
幹	事	塩田	浩 (26·27)
幹	事	稻葉	昭 (26·27)
幹	事	熊崎	文二 (26·27)
幹	事	興水	啓一 (26·27)
幹	事	廣田	均 (26·27)
幹	事	後藤	守雄 (26·27)
幹	事	黒滝	祐司 (27·28)
幹	事	小林	義尚 (27·28)
幹	事	田村	栄一 (27·28)
幹	事	関本	文彦 (27·28)
幹	事	真部	喜孝 (27·28)
幹	事	結城	勇一 (27·28)
幹	事	長沢	龍助 (27·28)
幹	事	佐々木	凱男 (27·28)
幹	事	川崎	一成 (27·28)
幹	事	丸山	富美男 (28)
幹	事	坂詰	正衛 (28·29)
幹	事	望月	知林 (28·29)
幹	事	安東	安生 (29·30)
幹	事	寺崎	哲郎 (29·30)
幹	事	関	哲男 (29·30)
幹	事	林田	達郎 (29·30)
幹	事	森	伸夫 (30·31)
幹	事	道見	俊廣 (30·31)
幹	事	小野	武 (30·31)
幹	事	馬場	妙子 (30·31)
幹	事	屋鋪	公平 (30·31)
幹	事	堀	幸男 (30·31)
幹	事	根岸	元宏 (31·32)
幹	事	渡部	浩司 (31·32)
幹	事	大村	日出雄 (32)
幹	事	甲田	知由 (33)
幹	事	吉野	洋一 (35)
幹	事	鈴木	肇 (35)
幹	事	御供	政紀 (35·36)
幹	事	小澤	文郎 (36)
幹	事	大西	良雄 (37)

役 職	氏 名 (在学年度)
会 長	相 田 信 次 (44・45)
副 会 長	宮 下 公 雄 (54～57)
副 会 長	横 山 雅 人 (56～59)
副 会 長	濱 田 義 之 (45)
副 会 長	山 田 浩 子 (41・42)
副 会 長	江 本 博 勝 (46・47)
副 会 長	伊 達 伸 子 (40・41)
副 会 長	弓 場 重 明 (44・45)
幹 事 長	田 中 由 雄 (42・43)
常任幹事 (庶務担当)	関 野 幹 雄 (48・49)
常任幹事 (庶務担当)	関 野 浩 二 (57～60)
常任幹事 (会計担当)	山 瀬 匠 (08・09)
常任幹事 (会計担当)	瀬 川 晶 子 (52・53)
常任幹事	田 村 実 (26・27)
常任幹事	鈴 木 義 樹 (28・29)
常任幹事	市 川 紀 子 (35・36)
常任幹事	染 谷 徳 昭 (42・43)
常任幹事	土 屋 貞 明 (42・43)
常任幹事	林 田 孝 二 (43)
常任幹事	山 口 良 児 (43・44)
常任幹事	平 岩 美 知 子 (44・45)
常任幹事	久 保 田 博 明 (45・46)
常任幹事	遠 藤 晶 子 (45・46)
常任幹事	西 野 和 衛 (46・47)
常任幹事	瀬 川 宏 (47・48)
常任幹事	神 戸 絹 代 (47・48)
常任幹事	鈴 木 允 (48)
常任幹事	大 島 裕 二 (52・53)
常任幹事	露 木 ひ ろ み (53・54)
常任幹事	斎 藤 聰 (54～57)
常任幹事	柳 川 浩 昭 (54～57)
常任幹事	高 野 真 一 (54～57)
常任幹事	松 原 裕 二 (54～57)
常任幹事	小 松 徳 弘 (56～59)
常任幹事	高 野 誠 (57～60)
常任幹事	山 本 宏 治 (57～60)
常任幹事	勝 又 義 博 (57～60)
常任幹事	野 田 正 人 (62・63)
常任幹事	久 保 和 之 (63・01)
常任幹事	廣 岡 達 郎 (01～04)
常任幹事	斎 藤 実 (01～04)
常任幹事	藤 澤 博 隆 (03・04)
常任幹事	明 石 浩 一 (05～09)
常任幹事	渡 邊 孝 哉 (09・10)
会計監査	宮 川 守 (47・48)
会計監査	藤 本 文 彦 (52・53)

任期(H24.4.1 ~H27.3.31)		
役	職 氏	名(在学年度)
顧問	小椋 貞夫	(28·29)
顧問	石川 貞夫	(28·29)
顧問	角田 義廣	(30·31)
顧問	平井 千枝	(34·35)
顧問	柴田 正	(41·42)
顧問	小早川 隆義	(42·43)
参考	渡辺 洋子	(35·36)
参考	岩崎 一雄	(43·44)
参考	浅田 義志子	(39·40)

公式WEBサイト



URL <http://www.nu-ir-koyukai.jp/>

役	職	氏名(在学年度)	役	職	氏名(在学年度)	役	職	氏名(在学年度)
幹	事	池田昌史(08・09)	幹	事	前田正丈(47・48)	幹	事	小川武司(37)
幹	事	成田伸行(08・09)	幹	事	野田栄(47・48)	幹	事	多田清太郎(37)
<b>桜栄会</b>								
幹	事	山口玲子(34・35)	幹	事	辻本真由美(51・52)	幹	事	坂口正剛(37)
幹	事	阿部麻子(35・36)	幹	事	濱田順二(53・54)	幹	事	小石川宣照(37)
幹	事	木崎有里子(35・36)	幹	事	吉川浩司(54・55)	幹	事	遠藤日出夫(37)
幹	事	渡辺かよ子(35・36)	幹	事	後藤幸江(58・59)	幹	事	渡辺博夫(37)
幹	事	板垣和代(36・37)	幹	事	齋藤みどり(59・60)	幹	事	栗山康雄(39)
幹	事	佐野茂子(36・37)	幹	事	長澤裕子(59・60)	幹	事	杉田朋昭(39)
幹	事	小泉陽子(36・37)	幹	事	中村由美子(61・62)	幹	事	両角勇(42)
幹	事	中村満里子(37・38)	幹	事	南まり子(03・04)	幹	事	江川洋(42)
幹	事	川口裕子(37・38)	幹	事	小池恭子(04・05)	幹	事	藤幡俊量(46)
幹	事	米山日出子(37・38)	幹	事	白川美保(05・06)	幹	事	高藤省三(49)
幹	事	金井美智子(38・39)	幹	事	小柴慶子(06・07)	幹	事	瀧本博(53)
幹	事	小坂照子(38・39)	幹	事	勝又美咲(16・17)	<b>桜文会</b>		
幹	事	塩谷まさよ(38・39)	<b>商経・二部</b>			幹	事	岩崎尚枝(41・42)
幹	事	井原康恵(38・39)	幹	事	村山要(30・31)	幹	事	小永井京子(43・44)
幹	事	望月千登世(38・39)	幹	事	杉山敏明(34・35)	幹	事	高橋真理子(44・45)
幹	事	秋山幸子(39・40)	幹	事	渡辺勝(38・39)	幹	事	榎本睦美(46・47)
幹	事	関口瑞(39・40)	幹	事	久保田勝(38・39)	幹	事	石井千枝子(45・46)
幹	事	福尾つや子(39・40)	幹	事	佐野勝己(39・40)	幹	事	松村啓子(51・52)
幹	事	神部文子(39・40)	幹	事	土屋忠得(40・41)	幹	事	佐野有美(52・53)
幹	事	高橋美鶴(40・41)	幹	事	鈴木正八(44・45)	幹	事	大塚久子(52・53)
幹	事	石黒榮美子(41・42)	幹	事	津田正克(50・51)	幹	事	武田裕美(55・56)
幹	事	鳥羽山資子(41・42)	幹	事	甲斐幸博(51・52)	幹	事	勝亦幾代(56・57)
幹	事	秋山悦子(41・42)	幹	事	甲斐忠則(51・52)	幹	事	北川早苗(56・57)
幹	事	渡辺あき子(41・42)	幹	事	後藤善夫(52・53)	幹	事	山崎睦子(57・58)
幹	事	嶋美也子(41・42)	幹	事	加藤喜章(53・54)	幹	事	高野直美(58・59)
幹	事	伊藝睦(41・42)	幹	事	鈴木理平(54・55)	幹	事	阿部昭子(59・60)
幹	事	駿藤春代(42・43)	幹	事	内野祥司(55・56)	幹	事	神田留美子(60・61)
幹	事	石原泰代(42・43)	幹	事	守野敏也(55・56)	幹	事	白石忍(63・01)
幹	事	篠田光代(42・43)	幹	事	山田良(55・56)	幹	事	渡邊陽子(01・02)
幹	事	影山貴美枝(43・44)	幹	事	杉山勝行(57・58)	幹	事	高鹿真弓(03・04)
幹	事	土屋時子(43・44)	幹	事	黒田文量(59・60)	幹	事	片柳容子(03・04)
幹	事	柴田敬子(44・45)	幹	事	金城三十二(59・60)	幹	事	秋山陽子(04・05)
幹	事	川村千代子(45・46)	幹	事	武井直子(60・61)	幹	事	古屋美帆(06・07)
幹	事	辻緑(45・46)	幹	事	土佐谷泰子(61・62)	幹	事	山崎幸恵(08・09)
幹	事	小林秀実(45・46)	幹	事	田伏正和(01・02)	幹	事	佐野隆子(09・10)
幹	事	杉本清美(46・47)	幹	事	名雪しげみ(01・02)	幹	事	成島敦子(09・10)
幹	事	佐藤奈津美(47・48)	幹	事	菅江稔(02・03)	幹	事	星美保子(10・11)
幹	事	鈴木佳津江(47・48)	幹	事	明石知恵美(02・03)	幹	事	工藤美咲(10・11)
幹	事	神田みづ子(47・48)	幹	事	川原浩貴(03・04)	<b>商経・一部</b>		
幹	事	勝又昌代(48・49)	幹	事	小野和彦(03・04)	幹	事	萩野谷肇(41・42)
幹	事	原康子(48・49)	幹	事	坂口聖剛(03・04)	幹	事	上田定義(41・42)
幹	事	碓井久美子(49・50)	幹	事	今川高宏(04・05)	幹	事	加藤久貴(46・47)
幹	事	岩田智加子(50・51)	幹	事	町野智彦(05・06)	幹	事	秋山稔明(46・47)

役職	氏名(在学年度)	役職	氏名(在学年度)	役職	氏名(在学年度)
幹事	佐藤純子(06・07)	幹事	藤井由紀子(59・60)	幹事	大沼めぐみ(50・51)
幹事	三須洋美(06・07)	幹事	稻葉桂子(60・61)	幹事	峰田富美子(51・52)
幹事	齊藤真由美(06・07)	幹事	穂谷野弥生(60・61)	幹事	山口智佳子(51・52)
幹事	和泉久美(07・08)	幹事	小島みちよ(60・61)	幹事	堤令子(52・53)
幹事	小野澤美和(07・08)	幹事	久保玲華(61・62)	幹事	白井道代(52・53)
幹事	小林世以子(07・08)	幹事	山下朋子(61・62)	幹事	石橋治代(52・53)
幹事	中林香子(07・08)	幹事	袴田則子(61・62)	幹事	岩崎美浪(52・53)
幹事	水谷鯉恵(07・08)	幹事	鷺尾貴子(62・63)	幹事	竹内厚子(52・53)
幹事	横田忍(07・08)	幹事	田上順子(62・63)	幹事	宮澤正江(52・53)
幹事	中橋智子(07・08)	幹事	山口美樹(62・63)	幹事	遠藤豊美(52・53)
幹事	神戸アリ沙(08・09)	幹事	大須賀美穂(62・63)	幹事	長谷川規子(52・53)
幹事	兼房華(08・09)	幹事	櫻田智栄美(63・01)	幹事	松川順子(52・53)
幹事	石崎由香(08・09)	幹事	三宅理砂子(63・01)	幹事	松崎光子(52・53)
幹事	佐藤美幸(08・09)	幹事	野上香(63・01)	幹事	中澤小雪(53・54)
幹事	大水由佳(09・10)	幹事	日吉美由紀(63・01)	幹事	斎藤裕子(53・54)
幹事	田村理絵(09・10)	幹事	勝俣千穂(63・01)	幹事	長田智子(53・54)
幹事	内田恵(09・10)	幹事	田村尚子(01・02)	幹事	押見恵美子(53・54)
幹事	渡邊明子(09・10)	幹事	杉村智恵(01・02)	幹事	船石圭子(53・54)
幹事	植野敦子(09・10)	幹事	湯原里美(01・02)	幹事	四條里美(53・54)
幹事	佐野文美(10・11)	幹事	久保田裕子(01・02)	幹事	鷺巣かほる(53・54)
幹事	秋山左知子(11・12)	幹事	市川智香(01・02)	幹事	藤原和美(53・54)
幹事	鞍本鮎美(11・12)	幹事	岡本ゆう子(02・03)	幹事	原田純子(54・55)
幹事	尾間裕仁(11・12)	幹事	大山妙子(02・03)	幹事	池谷美津子(54・55)
幹事	笠原奈津子(11・12)	幹事	羽田真理子(02・03)	幹事	中澤由利子(54・55)
幹事	宮田朋子(11・12)	幹事	望月ゆりか(02・03)	幹事	佐伯絵里子(54・55)
幹事	田角典子(12・13)	幹事	安田ひとみ(03・04)	幹事	伊藤若菜(54・55)
幹事	小林由佳(12・13)	幹事	西村直子(03・04)	幹事	吉田麻理子(54・55)
幹事	赤川智海(12・13)	幹事	宮本久美子(03・04)	幹事	野中美香(55・56)
幹事	小出祐子(12・13)	幹事	渡邊真理子(03・04)	幹事	藤田建江(55・56)
幹事	峯松園美(13・14)	幹事	小澤知子(03・04)	幹事	小澤里佳子(56・57)
幹事	山田美穂(13・14)	幹事	出口幸子(04・05)	幹事	深津久美子(56・57)
幹事	遠藤友海(13・14)	幹事	井上雅代(04・05)	幹事	石谷美智子(56・57)
幹事	清水磨希子(13・14)	幹事	西岡かおり(04・05)	幹事	田中恵子(57・58)
幹事	高橋由実(13・14)	幹事	田村美保(04・05)	幹事	嶋由樹子(57・58)
幹事	米永寿子(13・14)	幹事	原田愛(04・05)	幹事	鈴木江利子(57・58)
幹事	渡邊晃子(13・14)	幹事	岩下志保(05・06)	幹事	西田昭子(57・58)
幹事	岩田直子(14・15)	幹事	関谷園子(05・06)	幹事	鈴木敦子(58・59)
幹事	大沼秋桜子(14・15)	幹事	渡邊千史(05・06)	幹事	武藤さゆり(58・59)
幹事	高橋美絵子(14・15)	幹事	川口由美子(05・06)	幹事	荻沢洋子(58・59)
幹事	石渡麻史(14・15)	幹事	池谷尚美(05・06)	幹事	平澤佳代子(58・59)
幹事	服部直美(14・15)	幹事	中村理恵子(05・06)	幹事	山田明子(58・59)
幹事	秋山絵操(14・15)	幹事	遠藤理愛(05・06)	幹事	谷井かほる(58・59)
幹事	山田真理子(14・15)	幹事	神尾かほり(05・06)	幹事	鈴木佳乃(58・59)
幹事	小野順子(14・15)	幹事	遠藤里都美(06・07)	幹事	塩崎朝子(59・60)
幹事	中村みづほ(14・15)	幹事	鈴木寛子(06・07)	幹事	加藤容子(59・60)
幹事	栗田裕子(15・16)	幹事	山本静香(06・07)	幹事	藤波佳乃(59・60)

役	職	氏	名(在学年度)	役	職	氏	名(在学年度)	役	職	氏	名(在学年度)
国	際			幹	事	岩井友紀 (20・21)		幹	事	小林久美 (15・16)	
幹	事	川口智彦 (54~57)		幹	事	澤木心美 (20・21)		幹	事	河原崎朱里 (15・16)	
幹	事	諫訪部 健 (55~58)		幹	事	杉本愛季 (20・21)		幹	事	平澤怜子 (15・16)	
幹	事	木村貴美和 (55~58)		幹	事	西原萌恵 (20・21)		幹	事	榎原友希 (15・16)	
幹	事	平野雅之 (56~59)		幹	事	森山麻里奈 (20・21)		幹	事	田村美沙子 (15・16)	
幹	事	福田勝弘 (56~59)		幹	事	横山千恵 (20・21)		幹	事	植松明菜 (15・16)	
幹	事	宇田隆康 (56~59)		幹	事	市川佳夏子 (20・21)		幹	事	荻島宏予 (15・16)	
幹	事	三浦 仁 (57~60)		幹	事	加藤あおい (20・21)		幹	事	渡邊裕未 (15・16)	
幹	事	横田 正 (57~60)		幹	事	宮下弘之 (20・21)		幹	事	荒井沙織 (15・16)	
幹	事	森田克彦 (58~61)		幹	事	青木萌子 (21・22)		幹	事	宇野浩吏 (16・17)	
幹	事	佐上菊二 (58~61)		幹	事	長田知郁 (21・22)		幹	事	星野成幸 (16・17)	
幹	事	小塚敏久 (58~61)		幹	事	清水 遥 (21・22)		幹	事	渡邊 尚 (16・17)	
幹	事	横溝泰蔵 (59~62)		幹	事	時吉結巳 (21・22)		幹	事	鈴木佳奈子 (16・17)	
幹	事	池尻敏広 (59~62)		幹	事	湯山菜名 (21・22)		幹	事	中西麻純 (16・17)	
幹	事	山田竜作 (60~63)		幹	事	矢田さき (21・22)		幹	事	増島清美 (16・17)	
幹	事	土田洋二 (60~63)		幹	事	清水祥子 (21・22)		幹	事	萩原美香 (16・17)	
幹	事	桑原健治 (60~63)		幹	事	小見山伊代 (21・22)		幹	事	平川綾乃 (16・17)	
幹	事	渡辺武一郎 (60~63)		幹	事	山下あゆ (21・22)		幹	事	綾部久美子 (16・17)	
幹	事	木俣かおり (61~01)		幹	事	高村美帆 (21・22)		幹	事	桑山理沙 (16・17)	
幹	事	増原伸一 (61~01)		幹	事	桑原里沙 (22・23)		幹	事	飯田泰恵 (17・18)	
幹	事	犬塚重暁 (63~03)		幹	事	小原美妃子 (22・23)		幹	事	石川裕里佳 (17・18)	
幹	事	野口 厚 (63~03)		幹	事	塩谷彰子 (22・23)		幹	事	中山朋美 (17・18)	
幹	事	藤田 隆 (63~03)		幹	事	朝比奈涼子 (22・23)		幹	事	田中沙季 (17・18)	
幹	事	佐藤淳悦 (01~04)		幹	事	篠原莉那 (22・23)		幹	事	堀田裕貴 (17・18)	
幹	事	高橋博樹 (01~04)		幹	事	奈良彩夏 (22・23)		幹	事	瀧 智草 (17・18)	
幹	事	長谷川哲夫 (01~04)		幹	事	原賀あかり (22・23)		幹	事	隅田優美 (17・18)	
幹	事	村上東洋男 (01~04)		幹	事	渡邊愛菜 (22・23)		幹	事	岩代美貴 (18・19)	
幹	事	須田啓一郎 (01~04)		幹	事	吉井愛依 (22・23)		幹	事	加藤未奈 (18・19)	
幹	事	原田恭平 (01~04)		工	科			幹	事	深谷友香里 (18・19)	
幹	事	椿 昌寛 (01~04)		幹	事	宮下正俊 (39・40)		幹	事	豊田彩香 (18・19)	
幹	事	南 敦子 (02~05)		幹	事	菅沼 弘 (39・40)		幹	事	野口明日香 (18・19)	
幹	事	門脇正明 (02~05)		幹	事	渡辺 清 (42・43)		幹	事	藤井里奈 (18・19)	
幹	事	藤原誠吾 (02~05)		幹	事	赤地哲也 (42・43)		幹	事	松井志保美 (18・19)	
幹	事	前田智也 (02~05)		幹	事	吉田 力 (44・45)		幹	事	萬両美幸 (18・19)	
幹	事	坂井利彰 (02~05)		幹	事	長倉良幸 (44・45)		幹	事	福島健嗣 (18・19)	
幹	事	小田純子 (02~05)		幹	事	島田雷太 (44・45)		幹	事	村松 海 (18・19)	
幹	事	田辺裕司 (02~05)		幹	事	早川清文 (45・46)		幹	事	奥山亜佐美 (18・19)	
幹	事	田松正樹 (02~05)		幹	事	三枝和彥 (46・47)		幹	事	富井映里 (19・20)	
幹	事	西岡昌仁 (02~05)		幹	事	勝間田太住 (47・48)		幹	事	木下涼平 (19・20)	
幹	事	鎌田文一 (02~05)		幹	事	天野寿一 (48・49)		幹	事	中安美咲 (19・20)	
幹	事	沼尻正則 (03~06)		幹	事	上原豊和 (52・53)		幹	事	藤井ゆかり (19・20)	
幹	事	若松はるか (03~06)		幹	事	西家勝彦 (52・53)		幹	事	山本靖子 (19・20)	
幹	事	三宅大介 (03~06)		幹	事	埜村光伸 (53・54)		幹	事	三宅ひとみ (19・20)	
幹	事	清水 建 (03~06)		幹	事	勝呂千明 (53・54)		幹	事	青木裕也 (20・21)	
幹	事	小塚達郎 (03~06)		幹	事	鈴木啓太郎 (54・55)		幹	事	小林可南子 (20・21)	
幹	事	紅林美智子 (03~07)						幹	事	石政未希 (20・21)	

役	職	氏名(在学年度)	役	職	氏名(在学年度)	役	職	氏名(在学年度)
幹	事	田野口皓太(15~18)	幹	事	木下真由美(11~14)	幹	事	佐藤治夫(04~07)
幹	事	菅家奈都美(15~18)	幹	事	小森美雪(11~14)	幹	事	千野琢磨(04~07)
幹	事	藁谷和正(17~18)	幹	事	若月朋子(11~14)	幹	事	渡辺将之(04~07)
幹	事	岩井小百合(16~19)	幹	事	齋藤久美絵(11~14)	幹	事	杉山文予(05~08)
幹	事	鈴木弘明(16~19)	幹	事	川村友江(11~14)	幹	事	江島照美(05~08)
幹	事	竹川光一朗(16~19)	幹	事	猪狩博織(11~14)	幹	事	室伏寛美(05~08)
幹	事	黒子佳恵(16~19)	幹	事	山下政幸(11~14)	幹	事	田尻美三(05~08)
幹	事	大森未奈子(16~19)	幹	事	中村久美(11~14)	幹	事	青木徹(05~08)
幹	事	笠倉諒(16~19)	幹	事	鈴木さや夏(13~14)	幹	事	大嶽龍一(05~08)
幹	事	中山優貴(17~20)	幹	事	川下知恵(12~15)	幹	事	沖倉保宏(06~09)
幹	事	浅井啓悟(17~20)	幹	事	鹿内隼人(12~15)	幹	事	今川慶(06~09)
幹	事	芹沢崇(17~20)	幹	事	齋藤慎亮(12~15)	幹	事	田中智康(06~09)
幹	事	関谷紀志(17~20)	幹	事	山本克幸(12~15)	幹	事	久芳仁(06~09)
幹	事	長谷川孝洋(17~20)	幹	事	豊永有美子(12~15)	幹	事	植松信二(06~09)
幹	事	勝呂孝(17~20)	幹	事	原順子(12~15)	幹	事	小林寿成(07~10)
幹	事	中島由人(17~20)	幹	事	平野文星(14~15)	幹	事	望月雅子(07~10)
幹	事	小野弥咲(17~20)	幹	事	小澤有礼(12~15)	幹	事	斎藤美根子(07~10)
幹	事	篠原直人(17~20)	幹	事	大野達男(12~15)	幹	事	纏纏健太郎(07~10)
幹	事	笠原菜央子(17~20)	幹	事	太田孝一(13~16)	幹	事	佐竹篤(07~10)
幹	事	古山結子(17~20)	幹	事	山川利雄(13~16)	幹	事	川野梨恵(07~10)
幹	事	永野映吏可(18~21)	幹	事	浅野雄介(13~16)	幹	事	高島寛幸(08~11)
幹	事	勝又智子(18~21)	幹	事	筒井友恵(13~16)	幹	事	正木創一(08~11)
幹	事	西岡基(18~21)	幹	事	本多加奈(13~16)	幹	事	関根大助(08~11)
幹	事	緒方義明(18~21)	幹	事	山本彩子(13~16)	幹	事	井上善史(08~11)
幹	事	後藤奈津子(18~21)	幹	事	小栗美緒(13~16)	幹	事	登ヶ谷祐人(08~11)
幹	事	祭興斌(18~21)	幹	事	勅使河原武史(13~16)	幹	事	金子浩二(08~11)
幹	事	松田健嗣(18~21)	幹	事	相見大輔(13~16)	幹	事	内田修(08~11)
幹	事	片柳健太(18~21)	幹	事	板橋紗綾香(13~16)	幹	事	成田哲浩(09~12)
幹	事	松原慎(18~21)	幹	事	武田泰弘(13~16)	幹	事	井上美由紀(09~12)
幹	事	木佐木枝里(18~21)	幹	事	浅石友里子(13~16)	幹	事	川合貴子(09~12)
幹	事	金井尊史(18~21)	幹	事	渡邊頌子(13~16)	幹	事	井上明子(09~12)
幹	事	廣瀬公彦(19~22)	幹	事	河野奈津子(14~17)	幹	事	徳田瑞希(09~12)
幹	事	久保田真未(19~22)	幹	事	脇田千草(14~17)	幹	事	斎藤真規(10~13)
幹	事	佐川彩子(19~22)	幹	事	綱島昇(14~17)	幹	事	長岡福也(10~13)
幹	事	御所園智仁(19~22)	幹	事	塙田泰章(14~17)	幹	事	筒井靖子(10~13)
幹	事	砂原誠(19~22)	幹	事	杉町カウエ(14~17)	幹	事	杉山祥啓(10~13)
幹	事	阿部裕樹(19~22)	幹	事	小川淳(14~17)	幹	事	大津留真紀(10~13)
幹	事	佐久間仁輝(20~23)	幹	事	内村彩(14~17)	幹	事	大友仁美(10~13)
幹	事	橋本康弘(20~23)	幹	事	渡邊賢治(14~17)	幹	事	佐野京子(12~13)
幹	事	張替祐介(20~23)	幹	事	井出知里(15~18)	幹	事	鈴木亜希子(12~13)
幹	事	山下昌志(20~23)	幹	事	石川奈緒子(15~18)	幹	事	園部真子(12~13)
幹	事	本田怜央(20~23)	幹	事	井所博志(15~18)	幹	事	長谷川郁子(11~14)
			幹	事	金田亜由美(15~18)	幹	事	松下夏葉(11~14)
			幹	事	小倉宏紀(15~18)	幹	事	竹腰真裕子(11~14)
			幹	事	宮腰治憲(15~18)	幹	事	後藤暢宏(11~14)
						幹	事	竹村直(11~14)

校友会だより

總  
會



國際關係學部校友會

## 一 各科活動報告 一 その他

田中由雄幹事長から、平成二十三年年度事業報告がなされ、続いて平成二十三年年度決算報告が山瀬匠常任幹事（会計担当）から報告、宮川守会計監査から監査報告があり、それぞれ承認された。

各科活動報告では、伊達伸子桜栄会会長から第五十二回桜栄会総会が平成二十四年六月三日（日）に日本大学国際関係学部校舎十五号館で開催され来賓者合わせ六十名の参加があった旨の報告がなされた。

その他としては田中由雄幹事長から資料として正会員申込用紙を同封してありましたが、二会員印へこくは

和やかな雰囲気で歓談され、懇親会は閉会となりました。

なお、平成二十四年度は平成二十四年十月二十七日（土）に（平成二十四年三月に完成）三島駅北口校舎にて総会・懇親会が開催されるので多くの皆様の参加をお待ちしております。

桜  
栄  
会



桜栄会



国際関係学部同窓会

平成二十四年七月七日（土）十六時からみしまプラザホテルにおいて総会が開催された。

濱田義之副会長の司会で弓場重明副会長の開会が伝えられ進行され、相田信次会長挨拶、続いて議事に移り、議長団・書記が選出された。議長には久保田博明常任幹事、副議長には勝又義博常任幹事、書記には佐野茂子幹事が選出され、次の議事が報告及び審議された。

一一一 平成二十三年度事業報告  
一一一 平成二十三年度決算報告  
一一一 監査報告

一一一 平成二十四年度新幹事選出  
一一一 平成二十四年度事業計画（案）  
一一一 平成二十四年度予算（案）  
一一一 各周年事業準備金に関する件  
一一一 会長賞等表彰基準改正に関する件  
一一一 一本部校友会関係行事等について

総括して各団年事業準備金について、山瀬匠常任幹事(会計担当)から本部校友会で東日本災害義援金の一部とした為、本年度会費収入の予算額が減額となり決算報告書のとおり次年度繰越額三八五・七一八円となつた。その結果奨学金準備金二五〇・〇〇〇円、周年事業基金準備金(三項目)〇円、翌年度繰越金三三五・七一八円とする提案がなされ承認された。

会長賞等表彰基準改正に関する件については田中由雄幹事長から会長賞基準第三条の学生公認団体のうち学生会CSAについては平成二十四年度から文化会所属社会活動部に名称変更となつたため、第一条第二号から削除される旨の提案説明がなされ承認された。

本部校友会関係行事等については田中由雄幹事長から平成二十四年七月十三日東京ドームホテルで開催された平成二十四年度日本大学校友会役員において提案及び審議項目について報告がなされた。

国際関係学部同窓会

平成二十三年十月二十二日、第二十八回国際関係学部同窓会総会・懇親会が東京市ヶ谷の桜門会館にて開催されました。この桜門会館は「校友が一同に会して親睦を深め、校友同士または校友と学生が有益な情報交換を行うための、新活動拠点として平成二十二年六月に完成した会館です。今年度の同窓会総会・懇親会には約六十名の卒業生、来賓の先生方が集いました。

総会では宮下同窓会会长より挨拶があり、その後、事業報告、会計報告と続き、次年度の事業計画が審議されました。

懇親会におきましては、恩師である先生方と共に会員同士が思い出話に花を咲かせ、一層親睦を深め終始

國際關係學部同窓會

総会終了後、懇親会を開催した。横山雅人副会長及び田中由雄幹事長の司会で進行され、校歌斉唱に始まり相田信次会長挨拶の後、来賓挨拶として田中英壽理事長・本部校友会会长及び佐藤三武朗国際関係学部長の祝辞があつた。来賓紹介の後、関秀三国際関係学部事務局長による乾杯のご発声で懇談に移った。歌謡ものまねシヨーの余興の披露があり、鈴木允常任幹事の指揮のもと応援歌等となり石川貞夫顧問により万歳三唱で閉会となつた。

深めました。当日は昨夜からの雨が朝方まで降り続く天候でしたが、総会が始まる頃には良い天気に変りました。会員の皆様は学生時代に思いを馳せ同窓生との会話を楽しむことができました。

本年度の会報「桜栄」第四十七号は桜栄会単独での発行の最終号となりました。

恩師の先生方、歴代の会長、そして会員の皆様の近状報告、大学からのお知らせを掲載いたしました。来年から校友会会報に桜栄会の紙面が設けられますので、それを見ることができる校友会のホームページ「日本大学国際関係学部校友会」を紹介しました。

「桜栄」第四十七号（最終号）は本年四月一日に会員に発送いたしました。

深めました。当日は昨夜からの雨が朝方まで降り続く天候でしたが、総会が始まる頃には良い天気に変りました。会員の皆様は学生時代に思いを馳せ同窓生との会話を楽しむことができました。

本年度の会報「桜栄」第四十七号は桜栄会単独での発行の最終号となりました。

深めました。当日は昨夜からの雨が朝方まで降り続く天候でしたが、総会が始まる頃には良い天気に変りました。会員の皆様は学生時代に思いを馳せ同窓生との会話を楽しむことができました。

本年度の会報「桜栄」第四十七号は桜栄会単独での発行の最終号となりました。

て会員の皆様の近状報告、大学からのお知らせを掲載いたしました。来年から校友会会報に桜栄会の紙面が設けられますので、それを見ることができるのは、校友会のホームページ「日本大学国際関係学部校友会」を紹介しました。

「桜栄」第四十七号（最終号）は本年四月一日に会員に発送いたしました。

- 17 -

# 日本大学国際関係学部校友会会則

平成23年7月23日改正

## 第1章 総 則

### (名 称)

第1条 本会は日本大学国際関係学部校友会と称する。

### (事務局)

第2条 本会は事務局を静岡県三島市文教町2丁目31番145号に置く。

## 第2章 目的及び事業

### (目 的)

第3条 本会は会員相互の親睦と融和をはかり母校の発展に寄与すると共に母校建学の理念を社会に拡充することを目的とする。

### (事 業)

第4条 本会は前条目的達成のために次の事業を行う。

- 1 会報発行・会員名簿の作成
- 2 会員相互の親睦と融和をはかるための諸事業
- 3 母校の発展興隆に関する諸事業への協力参加
- 4 その他目的達成のために必要な諸事業

## 第3章 会 員

### (会員構成)

第5条 本会は日本大学三島予科・三島教養部・文理学部三島・短期大学部（三島校舎）・専攻科食物栄養専攻・国際関係学部・大学院国際関係研究科の出身者および在籍した者による正会員と幹事会において本会に關係が深く功勞があると認められた特別会員・名誉会員並びに準会員である国際関係学部・大学院国際関係研究科・短期大学部（三島校舎）の在学生をもって構成する。

- 2 特別会員・名誉会員並びに準会員は議決権は有しないものとする。

### (会 費)

第6条 会員は規程の定めるところにより、会費を納入しなければならない。

- 2 会費及び徴収方法は別に定める。
- 3 特別会員・名誉会員は会費を徴収しないものとする。

## 第4章 役 員

### (役員構成)

第7条 本会に次の役員を置く。

- |         |     |
|---------|-----|
| 会 長     | 1名  |
| 副 会 長   | 若干名 |
| 幹 事 長   | 1名  |
| 常 任 幹 事 | 若干名 |
| 幹 事     | 若干名 |
| 会 計 監 査 | 2名  |

### (顧問・参与)

第8条 本会は顧問・参与を置くことができる。

- 2 顧問・参与は幹事会の議を経て会長が委嘱する。

### (役員の選出)

第9条 会長は会長・副会長会議で推薦され、総会にて承認を得るものとする。

- 2 副会長は国際関係学部校友会を構成する各同窓会会长或は在学した者の代表者とし会長が推薦し、常任幹事会に報告するものとする。
- 3 幹事長は常任幹事から会長が推薦し、常任幹事会に報告するものとする。
- 4 常任幹事から庶務担当・会計担当を幹事長が指名し、会長・副会長会議に報告するものとする。

### (任 期)

第10条 各役員の任期は3年とし、再任は妨げない。ただし満80歳をもって定年とする。なお、期間は当該年度内とする。

- 2 欠員が生じたときは、必要に応じて補選し、その任期は前任者の残存期間とする。
- 3 任期満了した場合においても、後任者が就任するまでの間その職務を行う。

### (役員の職務)

第11条 会長は本会を代表し会務を総括する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。
- 3 幹事長は事務を統括し、本会運営に必要な一切の事務事項を遂行する。
- 4 常任幹事は幹事の互選により選出し、常任幹事会を構成、本会業務の遂行にあたる。
- 5 幹事は幹事会を構成し、本会運営の諸事項の議決にあたる。
- 6 顧問・参与は本会の重要事項につき、会長の諮問に応ずるものとする。

なお、顧問・参与には役員に関する規定を準用する。

## 第5章 会 議

### (会議及び議決方法)

第12条 本会の会議は、総会・会長、副会長会議・常任幹事会・幹事会の4種とする。

2 会議は会長が招集し、議長団はその都度選出する。

3 やむを得ない場合は、常任幹事会及び幹事会をもって総会に代ることができる。

### (会議の構成及び開催)

第13条 本会は目的達成のため下記の機関を置く。

2 総会は本会運営上の諸事項についての報告を受けこれを承認する。

総会は年1回開催するものとし会長がこれを招集する。

3 常任幹事会は常任幹事以上の役員を以て構成し本会の執行機関として本会の実質的運営にあたる。常任幹事会は必要に応じて隨時会長がこれを招集する。常任幹事3分の1以上の要求があった場合はこれを招集しなければならない。

4 幹事会は総会の代行機関として第14条の事項を付議し、これを議決する。

幹事会は年1回以上開催するものとし会長がこれを招集する。幹事3分の1以上の要求があった場合は臨時に招集しなければならない。

5 事務局は幹事長指示のもと会員相互の連絡及び各会議の議事の収録並びに運営に必要な一切の事務を行う。

### (総会の審議)

第14条 総会は次の事項を審議し議決する。

2 会則及び重要規定の制定、改廃に関する事項。

3 事業計画に関する事項。

4 予算・決算に関する事項。

5 会長の選任に関する事項。

6 その他第4条に基づいて必要と認められた事項。

## 第6章 支 部

### (支部の設置)

第15条 本会は円滑な発展と交流の促進のために支部を設けることができる。

2 支部の設置条件及び方法は別に定める。

## 第7章 会 計

### (会計年度)

第16条 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

### (経費)

第17条 本会の経費は、会費並びに寄付金その他の収入を以てこれを充てる。

### (会計監査)

第18条 会計監査は本会会計及び財務について監査し、その結果を総会にて報告する。

## 第8章 会 則

### (会則変更)

第19条 本会の会則の変更は総会の議を経てこれを決する。

### (会則の遵守)

第20条 国際関係学部校友会は日本大学校友会会則及び支部規程を遵守しなければならない。

### (施行細則)

第21条 この会則に必要な細則は会長・副会長会議及び常任幹事会の議決を経て会長がこれを施行する。

## 第9条 表 彰

### (表彰)

第22条 本会の目的及び事業に貢献した者は幹事会の議を経て、これを賞することができる。

2 卒業予定者及び在学生に対する会長賞等の表彰規定は別に定める。

## 第10章 除 名

### (会員除名)

第23条 会員が次の事項に該当した行為があったときは幹事会の議を経て除名することができる。

2 国際関係学部の名誉を傷つけ、また校友としての品位を害する言動があったとき。

3 校友会の秩序を乱したとき。

4 故意または重大な過失により校友会に損害を与えたとき。

付 則 本会則は平成23年8月1日より施行する。

# 日本大学校友会組織図

日本大学校友会(校友会本部事務局)

都道府県支部(65 支部)

北海道ブロック(札幌・旭川・稚内・小樽・帯広・留萌・苫小牧・網走・釧路)  
東北ブロック(青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)  
関東ブロック(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・川崎・山梨)  
東京ブロック(東京都第一・東京都第二・東京都第三・東京都第四・東京都第五・  
東京都第六・東京都第七)  
東海ブロック(岐阜・静岡・愛知・三重)  
北信越ブロック(新潟・富山・石川・福井・長野・長野北信)  
近畿ブロック(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)  
中国ブロック(鳥取・島根・岡山・広島・山口)  
四国ブロック(徳島・香川・愛媛・高知)  
九州ブロック(福岡・北九州・佐賀・長崎・佐世保・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)

学部別部会(16 部会)

本部大学院・法・文理・経済・商・芸術・国際・理工・生産工・工・医・歯・松戸歯・生物資源科・薬・通信

職域別部会(4 部会)

全国桜師会・桜門会計人会・日本大学法曹会・全国桜門スポーツ部会

桜門会

海外特別支部(8 支部)

韓国・ブラジル・ロサンゼルス・台湾・サンフランシスコ・スペイン・インドネシア

# 日本大学国際関係学部校友会組織図

国際関係学部校友会  
(旧三島同窓会)

三島豫科  
三島教養部  
文理学部(三島)

短期大学部  
桜文会(国文・英文)  
商経科同窓会(1・2部)  
桜栄会(栄養・家政・食栄・生活)  
工科同窓会(建築・機械)

国際関係学部同窓会